


令和 2年10月21日

(会派名) 新政会
(会派代表者) 吉田 耕一 殿

(会派名) 新政会
(議員名) 茨 智仁 

実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

実施項目の名称	坂出市議会会派合同研修会
実施場所	坂出市役所本庁舎4階 委員会室
実施日時 (期間)	令和2年10月20日(火曜日) 10時00分 ~ 11時30分
参加議員名	吉田耕一・茨智仁・山条真嗣・丸岡豊和
実施内容の概要	議会活性化や資質向上を図るため、全会派及び無所属議員3名の共催により、香川大学経済学部 古川尚幸教授を講師に迎え合同研修会を開催した。 研修内容 (1) 講演(70分) ・講師 古川 尚幸 氏(香川大学経済学部教授) ・演題 「城学連携の現状と課題 ~香川大学経済学部の取り組みを事例として~」 (2) 質疑応答(20分) 参加議員の所感は代表者2名から提出(別紙のとおり)

※ 参考となる書類があれば、添付して下さい。

令和2年10月20日会派合同研修会ということで香川大学経済学部の古川尚幸先生より「域学連携の現状と課題」というテーマでの講義を頂きました。

古川先生は坂出出身ということもあり、市内の個別の地域名での具体例を例示して頂きながらの講義となりました。

まずは「空洞化」というキーワードの元に4つの空洞化のお話を頂きました。

- ・「人の空洞化」が人口減少を
- ・「土地の空洞化」が農村地の荒廃を
- ・「むらの空洞化」が集落機能の脆弱化を
- ・「誇りの空洞化」が誇りの喪失を生むということでした。

これらの「空洞化」を防ぐために坂出市に特化した活用事例をご教示頂きました。

- ①観光資源としての瀬戸大橋の活用
- ②空間資源としてのコスモ石油跡地の活用
- ③空間資源としての緑地帯の活用
- ④空間資源としての商店街空き店舗の活用
- ⑤空間資源としての坂出イオンの活用
- ⑥人的資源としての高等学校・大学の活用

7月21日に実施された研修会で堤先生から提案いただいたご意見や今回の古川先生のご意見を真摯に受け止め、坂出市議会として、理事者側に対し提案をして参りたいと思います。

香川大学経済学部の高川尚幸教授をお迎えして、「域学連携の現状と課題～香川大学経済学部の取り組みを事例として」の演題でご講義いただいた。この講義を拝聴し、地方における課題と、これから取り組むべき事柄を学ぶことができた。

令和2年8月の報道によると、新型コロナウイルスの影響で、東京都への転入が減り2013年7月以来、初めて2522人の転出超過となった。この現象は、地方にとってはある意味ありがたい現象でもある。近い将来、全国896市区町村が消滅の危機に陥るとも言われている今、どの自治体でも危機感を持ち、消滅の危機を回避しようと模索しているのではなかろうか。消滅する理由として、以下4つの理由がある。

- ① 人口減少による人の空洞化
- ② 農林地の荒廃による土地の空洞化
- ③ 集落機能の脆弱化によるむらの空洞化
- ④ 誇りの喪失による誇りの空洞化

以上の理由で消えていく自治体が増えてくる。それを免れるためには、一番に若者が地元で留まることができる地域にすることだと高川先生にお教えいただいた。このことを踏まえて、香川大学では域学連携による活動を行っている。つまり、大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民やNPOなどとともに、地域の課題解決または地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動である。この活動は地域にとっても大学・学生にとっても非常に有益である。この活動のポイントとなるのが「学生が主体となった活動であること」「自ら財源を稼いでいること」である。このことは街づくりにおいても同様で、地域住民が主体となり、自ら稼いでいかなくてはならない。

最後に、高川先生が坂出市に期待することを挙げてくれた。

- ・観光資源としての瀬戸大橋の活用
- ・空間資源としてのコスモ石油跡の活用
- ・空間資源としての緑地帯の活用
- ・空間資源としての商店街空き店舗の活用
- ・空間資源としての坂出イオンの活用
- ・人的資源としての高等学校・大学の活用

提案いただいたことを、一つでも多く実現していきたいと考えます。